

# 口腔保健科

## I. 研修目標

健康な口腔をいかにして保ち続けるかという健康志向の時代に貢献できる歯科医師を育成する。出生前（妊娠期）から乳幼児、学童、学生、成人、高齢者といったそれぞれのライフステージに応じて、また有病者に対して、口腔の健康を保持、増進するために必要な検査、指導、処置（口腔ケアを含む）の研修を行う。さらに診療室の中だけでなく、地域社会に貢献するという理念に基づいた活動ができるように、地域歯科保健活動の研修を行う。

## II. 研修形態

研修期間：3ヶ月間

研修場所：口腔保健科外来、往診先（医科病棟）、保健センター

## III. 研修内容

- ・リスク検査、診断と口腔管理計画の立案
- ・口腔の健康保持、増進のための指導、支援（口腔疾患の原因と予防法の説明、ブラッシング指導、食事指導、その他生活環境改善のための指導、フッ化物の応用、シーラント、PMTCなど）
- ・往診による入院患者の口腔の健康保持、増進のための説明、指導、支援
- ・地域歯科保健活動

以上について下記の研修を行う。

(1) 口腔保健科受診患者を担当し、診療、見学、診療補助を行う。

(2) 症例検討や当科作成の「臨床の手引き」を用いたセミナーで知識を習得する。

特に、患者の特性（年齢、性格、社会的状況、基礎疾患の有無、口腔内環境など）への配慮に基づいた診療能力の習得を重視する。

(3) 地域歯科保健活動の計画、準備、実施に参加する。

各自が特に興味を持った研修テーマを持っている場合は、なるべくその意向を尊重した研修を行うよう配慮する。

## IV. 研修の評価

各研修内容について、DEBUT・研修手帳で評価する。評価は4段階評価とし、各項目の実施あるいは理解度をもって評価する。

(1) 外来研修、地域歯科保健活動

研修態度、検査、診断、指導、処置の実施あるいは見学・診療補助をした項目を評価する。

担当症例および興味を持った内容について発表、質疑応答を行い、理解度を評価する。

(2) セミナー等による研修

質疑応答を行い、理解度を評価する。

## V. スケジュール概略

1週間の予定 : 月・火・水・木・金 外来、口腔ケア往診 月 ゼミ 火 教室研究会  
随時、講義、セミナー

1～2ヶ月目 : 外来、往診での診療、見学、診療補助、地域歯科保健活動

3ヶ月目 : 外来、往診での診療、見学、診療補助、症例発表

# 保 存 科

## I. 研修目標

齲蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎の基礎的知識を学習する。

齲蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎の診査、診断を習得する。

歯内療法、修復処置の基礎的技術を習得する。

急性期の消炎処置、応急処置の習得。

## II. 研修形態

A, C プログラム 処置研修 (患者を配当。配当患者が来院される時のみ、保存科で処置する。)

選択研修 (週1回半日保存科で研修。新患、急患対応が主となる。)

Bプログラム 3ヶ月、6ヶ月 (保存科を選択した場合：指導医とマンツーマン 処置研修+選択研修)

## III. 研修内容

研修項目

- 1) 問診、診査、診断
- 2) プロブレムリスト作成
- 3) 治療計画の立案
- 4) 患者への説明
- 5) 処置前にディスカッション、シミュレーション
- 6) 処置
- 7) 処置後にディスカッション、シミュレーション

## IV. 研修の評価

各研修内容について、DEBUT・研修手帳で評価する。

評価は各項目の実施あるいは理解度をもって評価する。

## V. スケジュール概略

処置研修 1) 指導医より患者配当 2) 術前レポート作成し、ディスカッション 3) 必要により、シミュレーション 4) 処置 5) 反省点ピックアップ、場合によりシミュレーション

選択研修 新患当番補佐 指導医の指示により、問診、口腔内診査、消炎処置・応急処置を行う。

最初はアシストからスタートする。

1ステップごとに処置に参加し、習熟度、技術力を判断し、最終的には診療の大半を行う(ステップごとのチェック有り)。

# 歯周病科

## I. 研修目標

歯周病治療の基本的考え方、治療計画に沿った治療の進め方、治療の背景となっている基礎的研究の成果について理解するとともに、歯周病に関する診査、診断、治療計画の立案、歯周基本治療、歯周外科治療および関連する診療の各手技、予後の評価について体験、習得する。

## II. 研修形態

研修期間： 3ヶ月間（もしくは6ヶ月間）

研修場所：歯周病科外来、歯周病科研究室

## III. 研修内容

① 歯周病科外来にて下記項目について指導医の診療補助を行う。

- 1) 歯周組織診査、2) スタディモデルの作成、3) プラークコントロール、4) PMTC、
- 5) スケーリング・ルートプレーニング、6) 咬合治療、7) 歯周外科、8) メインテナンス、
- 9) その他の歯周治療

② 歯周病患者の治療

歯周病患者の配当を行い、指導医の指導のもとⅢ-①に示す内容に関して治療を行う。

③ 症例検討会、抄読会、各種セミナーへの参加

歯周病科における症例検討会、最新の文献紹介を行っている抄読会、他各種セミナーに参加し、歯周病学の知識を深める。

## IV. 研修の評価

各研修内容について、DEBUT・研修手帳で評価する。評価は4段階評価とし各項目の実施あるいは理解度をもって評価する。

## V. スケジュール概略

一週間の予定

月～金 ー外来

火午後 ー症例検討会・抄読会・各種セミナー

	月	火	水	木	金
午前	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療
午後	外来診療	外来診療 症例検討会 抄読会 各種セミナー	外来診療	外来診療	外来診療

3ヶ月（もしくは6ヶ月）のスケジュール

1ヶ月目：外来での診療補助、症例検討会、抄読会、各種セミナー

2-3(6)ヶ月目：患者担当し指導医のもと治療を行う

症例検討会、抄読会、各種セミナー

※ブタ顎骨を用いた歯周外科の実習は、指定の期日を設けて対応する。

# 冠・ブリッジ科

## I. 研修目標

補綴処置（クラウン・ブリッジ・有床義歯）に関する基礎的知識を学習・習得  
補綴処置を行う際に必要な検査，診断方法の習得  
補綴処置を正確に行うための基礎的技術の習得

## II. 研修形態

研修期間： 3ヶ月間

研修場所： 冠・ブリッジ科外来

研修体制： 研修指導医の行う治療の見学・アシスト、および担当患者の診療

## III. 研修内容

### 1. 研修項目

- 1) 補綴装置（クラウン・ブリッジ・有床義歯）についての基礎知識の習得
- 2) 患者への補綴装置・処置の適切な説明
- 3) 患者の治療計画の立案
- 4) 歯冠補綴に必要な基礎的技術の習得
- 5) 欠損補綴に必要な基礎的技術の習得
- 6) 有床義歯作製に必要な基礎的技術の習得
- 7) 補綴処置を通して咬合の理解を深める

1)～7)について，下記の研修を行う。

(1) 冠・ブリッジ科外来において、患者を担当し治療を実施、治療見学，補助を行う。

(2) 補綴治療の基礎知識（構造，分類，診断，治療）を冠・ブリッジ科での症例検討会やセミナー等で習得する。

## IV. 研修の評価

各研修内容について、DEBUT・研修手帳で評価する。評価は4段階評価とし各項目の実施あるいは理解度をもって評価する。

### 1. 外来研修

研修態度、診断法、治療法など実地した項目、あるいは見学・診療介助した項目

担当症例および興味を持った内容について発表、質疑応答を行い、習熟度を評価する。

### 2. 症例検討会・セミナー等による研修

指定されたテーマでレポートを提出し，習熟度を評価

## V. スケジュール概略

### 1 週間のスケジュール

基本的に外来診療時において新患対応も行っていく。

	月	火	水	木	金
午前	外来診療	外来診療	外来診療	教授診	外来診療
午後	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療 症例検討会	外来診療

### 3 ヶ月のスケジュール

研修期間	1 か月目	2 か月目	3 か月目
研修内容	講義および診査相互 実習 外来での診療見学, 補助	診査, 診断, 治療計 画立案し, 治療実施	外来診療 症例報告

# 義歯補綴科

## I. 研修目標

- 一般補綴治療（有床義歯を中心に冠橋も含める）の基礎的知識を学習・習得する。
- 一般補綴治療における検査，診断，基礎的技術を習得する。
- 一般補綴治療に対する基礎的技工法を習得する。
- 専門的補綴治療の基礎知識を習得する。

## II. 研修形態

研修期間： 3ヶ月間および6ヶ月間

研修場所：補綴科外来，インプラント専門外来，リハビリテーション室，技工室

## III. 研修内容

### 研修項目

- 1) 一般補綴治療の医療面接，臨床検査の実施
  - 2) 画像検査（デンタル，パノラマ他）の読影
  - 3) 一般補綴治療の診断と治療計画の立案
  - 4) 患者への一般補綴治療についての適切な説明の実施
  - 5) 治療方法の決定
  - 6) 一般補綴治療の実施
  - 7) 補綴装置の使用・清掃指導
  - 8) 経過観察
- 1)～8) について，補綴科外来において患者を担当し治療を実施，見学，補助を行う。また，担当症例については症例報告を行う。
- 9) 専門的補綴治療(専門診療)の研修
- 下記専門的補綴治療について見学，補助を行い，基礎知識について症例検討会やセミナー等で習得する。
- (1) 口唇口蓋裂
  - (2) 摂食・嚥下・言語障害のリハビリテーション
  - (3) 顎関節症
  - (4) 審美歯科，金属アレルギー
  - (5) 口腔インプラント
  - (6) 睡眠時無呼吸

## IV. 研修の評価

各研修内容について，DEBUT・研修手帳で評価する。評価は4段階評価とし各項目の実施あるいは理解度をもって評価する。

### 1. 外来研修

研修態度，診断法，治療法など実地した項目，あるいは見学・診療介助した項目について評価する。  
担当症例および興味を持った内容について発表，質疑応答を行い，習熟度を評価する。

### 2. 症例検討会・セミナー等による研修

指定されたテーマでレポートを提出し，習熟度を評価する。

## V. スケジュール概略

### 1 週間のスケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来診療 新患対応	外来診療 新患対応	外来診療 新患対応	外来診療 新患対応	外来診療 新患対応
午後	外来診療 急患対応	専門診療研修	外来診療 急患対応	専門診療研修 症例検討会	外来診療 急患対応

\* 専門診療の曜日は，内容によって異なる場合がある。

### 3 か月のスケジュール

研修期間	1 か月目	2 か月目	3 か月目
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来での診療見学，補助</li> <li>・症例検討会参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来での診療，見学，補助</li> <li>・担当患者の診療（診察，診断，治療計画立案，治療実施）</li> <li>・技工研修</li> <li>・症例検討会参加</li> <li>・専門診療研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来での診療，見学，補助</li> <li>・担当患者の診療（診察，診断，治療計画立案，治療実施）</li> <li>・技工研修</li> <li>・症例報告</li> <li>・専門診療研修</li> </ul>

### 6 か月のスケジュール

研修期間	1 か月目	2～5 か月目	6 か月目
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来での診療見学，補助</li> <li>・症例検討会参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来での診療，見学，補助</li> <li>・担当患者の診療（診察，診断，治療計画立案，治療実施）</li> <li>・技工研修</li> <li>・症例検討会参加</li> <li>・専門診療研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来での診療，見学，補助</li> <li>・担当患者の診療（診察，診断，治療計画立案，治療実施）</li> <li>・技工研修</li> <li>・症例報告</li> <li>・専門診療研修</li> </ul>

\* 6 か月コースでは，「すれ違い咬合」などの難症例の研修も行う。



# 口 腔 外 科

## I. 研修目標

- ・全身と口腔疾患の関連のわかる高度な専門性をもった歯科医師としての基礎を習得する。
- ・一人の人間として、医科ならびに専門医間の連携で口腔を診る歯科医療の基礎を体験・実践する。
- ・問題解決志向型の診療態度を身につける。

## II. 研修形態

研修期間：3 か月間または6 か月間

研修場所：口腔外科外来、口腔外科病棟、口腔外科医局

研修体制：日本口腔外科学会専門医が、個別に習得できるように指導する。

## III. 具体的な研修内容

- ① 入院患者の治療を体験し、チーム医療で患者背景を考慮した病める人を診る心構えを身につける。
- ② 入院患者の担当医となり、バイタルサインの評価と周術期の患者管理ができるようになる。
- ③ 医科との連携医療を行って行くための紹介状、照会状の読み方、書き方を身につける。
- ④ 全身疾患を有する患者の、歯科診療上の注意点について理解する。
- ⑤ 採血、静脈ラインの確保ができるようになる。
- ⑥ 適正な抗菌薬、鎮痛薬（非ステロイド性抗炎症薬やアセトアミノフェン）の使用法を修得する。
- ⑦ 口腔外科的疾患の診断法と治療法（歯牙脱臼や口唇裂傷などの処置法や歯性感染症、口腔癌の早期発見など）について知る。
- ⑧ 外傷やインプラント治療に応用できる口腔外科的基本手技（切開、剥離、縫合）を修得する。
- ⑨ 普通拔牙術・埋伏拔牙術・生検術などを体験し、普通拔牙処置ができるようになる。
- ⑩ 定例の症例検討会で、担当した入院患者のケースプレゼンテーションを行う。

## IV. 研修の評価

DEBUT・研修手帳を使用して、各項目の実施あるいは理解度により、4段階評価する。

### 1. 外来・病棟研修

研修態度・診断法・治療法など実施した項目、あるいは見学・診療介助した項目、担当症例および興味を持った内容について症例検討会での発表・質疑応答を行い、習熟度を評価する。

### 2. 症例検討会・セミナー等による研修

指定されたテーマで口頭試問もしくはレポートを提出し、習熟度を評価する。

## V. 研修スケジュールの概要

外来・病棟の診療スケジュールに合わせて、1.5 か月または3 か月ずつ病棟・外来で研修を行う。

		月	火	水	木	金
	8時	抄読会		症例検討会		
外 来	午前	外来初診	手術室研修	腫瘍外来日	外来初診	手術室研修
	午後	外来処置(小手術など)	手術室研修	選択科目参加	外来処置(小手術など)	漢方外来
病 棟	午前	病棟研修	手術室研修	病棟研修	教授回診	手術室研修
	午後	病棟研修	病棟カンファ	選択科目参加	摂食嚥下・腫瘍回診	手術室研修

# 口腔顎顔面外科

## I. 研修目標

- 口腔外科の基礎的知識ならびに技術を学習・習得する。
- 患者の全身状態の評価を学習・習得する。
- 理論的思考に基づく医療に必要な知識・技能を習得する。
- 研修医自身での智歯抜歯可能な技術を取得する。

## II. 研修形態

- 研修期間は3ヶ月とする。
- 口腔顎顔面外科外来で口腔顎顔面外科指導医（口腔外科専門医）の指導の下で研修する。
- 診療補助や診療見学を行い基礎的知識・技術を習得する。
- 症例検討会、勉強会や抄読会の参加による口腔外科最新知識の習得をする。
- 指導歯科医の判断の下、知識・技能に応じ口腔外科小手術を実施する。

## III. 研修内容

### 1. 研修項目

#### 1) 口腔外科疾患の診断

- ①医療面接、病歴の聴取
- ②現症の記載、臨床診査の実施
- ③画像検査（X線，MRI 他）の選択と読影
- ④全身状態の評価（血圧、脈拍、呼吸状態など）
- ⑤臨床検査（血液検査、生理検査、細菌検査など）の選択と実施・評価
- ⑥疾患の診断と病態の把握
- ⑦治療計画の立案とインフォームドコンセント

#### 2) 治療

- ①局所麻酔法（表面麻酔、浸潤麻酔、伝達麻酔）
- ②口腔外科基礎手技（切開、縫合など）
- ③口腔内小手術（抜歯術、埋伏智歯抜歯術、口腔内消炎手術、歯根端切除術など）
- ④口唇口蓋裂患者の管理
- ⑤口腔癌患者の外来管理
- ⑥その他口腔外科疾患患者（顎関節症、口腔粘膜疾患など）の外来治療、管理

### 2. 研修方法

- 1) 口腔顎顔面外科外来において、口腔外科疾患患者を担当し上記内容につき研修する。
- 2) 口腔外科の基礎知識や最新知識を口腔顎顔面外科での症例検討会、勉強会や抄読会等で習得する。

#### IV. 研修の評価

各研修内容について、DEBUT・研修手帳で評価する。評価は4段階評価とし各項目の実施あるいは理解度をもって評価する。

##### 1. 外来研修

研修態度、診断法、治療法など実地した項目、あるいは見学・診療介助した項目  
担当症例および治療内容について質疑応答を行い、習熟度を評価する。

##### 2. 症例検討会および勉強会・抄読会等による研修

質疑応答を行い、習熟度を評価する。

#### V. スケジュール概略

口腔顎顔面外科にて研修を3ヵ月間\*行う。

一週間の予定 月～金 外来研修

午前 — 新患対応および外来診療

午後 — 外来小手術

水朝 — 勉強会

金朝 — 抄読会

金午後 — 症例検討会

1ヵ月目：基礎技術研修、診療見学・介助

2ヵ月目：診療介助および患者担当の診療、口腔外科小手術の実施

\*ただし3ヵ月目は歯科病棟指定研修となり、研修内容は別に記載する。

# 矯正歯科

## I. 研修目標

矯正歯科治療に必要な基礎的知識、術式を習得する。

## II. 研修形態

研修期間：3か月間

研修場所：矯正歯科外来、矯正歯科医局

研修体制：実習、検査・診断・治療見学、補助、セミナー等への参加

## III. 研修内容

1. 不正咬合に関する医療面接
2. 顎顔面頭蓋と咬合の検査
3. 顎口腔機能検査
4. 頭部 X 線規格写真分析
5. 模型分析
6. 不正咬合の診断と治療計画の立案
7. 矯正装置の製作
8. 矯正治療の評価

## IV. 研修の評価

各研修内容について、DEBUT・研修手帳で評価する。評価は4段階評価とし各項目の実施状況あるいは理解度をもって評価する。

## V. スケジュール概略

一週間の予定

- 火（午前）・木（午後）・金（午後）・・・ 教授診断
- 火（午後）・木（午後）・・・ 顎口腔機能検査
- 木（午前）・・・ 症例検討会（カンファランス）
- その他・・・ 形態検査、治療見学、実習、セミナーなど

### 3か月のスケジュール

研修期間	1か月目	2か月目	3か月目
研修内容	セミナー及び相互実習 症例分析実習	治療計画立案実習 矯正装置の製作 外来での検査・診断・治療 見学，補助	外来での検査・診断・治療 見学，補助

# 小児歯科

## I. 研修目標

- 小児のう蝕の検査・診断・治療を習得する。
- 咬合異常を有する小児の検査・診断・治療を習得する。
- 障害者の歯科治療（全身麻酔下集中歯科治療を含む）を経験する。
- 小児の外来小手術を経験する。
- 全身疾患を有する小児の口腔内管理を経験する。
- 小児の摂食・嚥下リハビリテーションを体験する。

## II. 研修形態

- 研修期間 : 3 か月間
- 研修場所 : 小児歯科外来、全身管理歯科治療部、手術室、口腔外科外来、小児科病棟
- 研修体制 : 小児歯科の指導歯科医の指導にて研修を行う。

## III. 研修内容

- 1) 小児歯科受診の患児（保護者）の医療面接および口腔内診察の実施
- 2) 小児のう蝕治療の治療計画立案と説明の実施
- 3) 小児のう蝕予防処置の実施
- 4) 小児のう蝕に対する修復処置、歯髄処置、抜歯等の実施
- 5) 小児や障害児（者）の行動管理の習得
- 6) 咬合治療の検査と治療計画の立案
- 7) 咬合治療に使用する口腔内装置の技工作業
- 8) 小児の顎咬合機能検査の見学と補助
- 9) 全身麻酔歯科治療の見学と補助および治療
- 10) 静脈内鎮静法下歯科治療の見学と補助
- 11) 外来小手術の手術見学および補助
- 12) 小児科病棟往診の見学および補助
- 13) 口唇口蓋裂専門外来における哺乳指導の見学と補助
- 14) 小児や障害児（者）への摂食・嚥下機能療法の見学と補助
- 15) 小児の顎関節症患者における見学および補助
- 16) 小児歯科全般の知識について症例検討会やセミナー等での習得

#### IV. 研修の評価

各研修内容について、DEBUT・研修手帳で評価する。

評価は4段階評価とし各項目の実施あるいは理解度をもって評価する。

##### 1. 外来研修

診断や治療を行った項目、見学・診療介助した項目における実施状況や研修態度の評価  
担当症例および興味を持った症例の発表と質疑応答を行い、習熟度を評価

##### 2. 症例検討会・セミナー等による研修

レポート等にて習熟度を評価することもある。

#### V. スケジュール概略

##### ・ 1週間の予定

	月	火	水	木	金
午前	外来診療 (定期健診、う 蝕治療、咬合治 療、摂食・嚥下 機能訓練等)	静脈内鎮静法 全麻下歯科治療 外来小手術	新患カンファ 口唇口蓋裂専門 外来	症例検討会 障害者歯科 小児科往診	静脈内鎮静法 全麻下歯科治療
午後	障害者歯科	外来診療	障害者歯科	外来診療	外来診療

上記のほかに講義、新患対応、顎口腔機能検査補助、技工等も行う。

##### ・ 3か月のスケジュール (予定)

1～2か月目 : 小児歯科診療全般に関する講義・セミナー・実習  
一般外来診療および障害者歯科診療の補助  
全身麻酔下歯科治療や静脈内鎮静法、外来小手術等の見学

2～3か月目 : 一般外来診療および障害者歯科診療の補助  
全身麻酔下歯科治療や静脈内鎮静法、外来小手術等の見学・参加  
患者担当 (治療計画立案および診療)

\* 研修中は、新患カンファおよび症例検討会 (週1～2回)、医局会 (月1回) 等にも参加する。

# 顎顔面放射線科（歯科放射線科）

## I. 研修目標

- 歯科領域の画像検査の原理、方法を学習・習得する。
- 歯科領域の画像診断の実際を学習・習得する。
- 歯科領域の放射線治療の基礎的知識を学習・習得する。

## II. 研修形態・スケジュール・研修場所

1. 研修期間：3ヶ月
  - 1) 1ヶ月目：基礎的知識の学習・習得（講義・セミナー）
  - 2) 2ヶ月目：撮影手技、各検査法の読影の学習・習得
  - 3) 3ヶ月目：総合画像診断の学習・習得、症例検討
2. 研修場所：顎顔面放射線科外来

## III. 研修内容

1. 研修項目
  - 1) 疾患に応じた検査法の選択
  - 2) 口内法撮影の実施と読影
  - 3) パノラマ撮影の実施と読影
  - 4) その他の口外法撮影の見学と読影
  - 5) 特殊検査（CT、MR、RI、エコー）の見学と読影
  - 6) 総合画像診断
  - 7) 唾液腺造影検査の見学と読影
  - 8) 顎関節造影検査の見学と読影
  - 9) インプラント検査の見学とシミュレーションの体験
  - 10) 放射線治療の見学、放射線生物学について学ぶ。
  - 11) 放射線被曝の防護（適正化、最適化、線量限度）などについて学ぶ。
2. 上記1)～11)について、セミナーや症例検討会等で基礎的知識を学習・習得する。

## IV. 研修の評価

各研修内容について、DEBUT・研修手帳で評価する。評価は4段階評価とし各項目の実施、理解度をもって評価する。

- 1) 外来研修：研修態度、実施項目、見学項目について評価する。テーマを課し、発表、質疑応答を行い、習熟度を評価する。
- 2) セミナーや症例検討会等：研修でレポートを提出させ、理解度を評価する。

# 歯科麻酔科・全身管理歯科治療部

## I. 研修目標

歯科麻酔・全身管理の知識および技術を習得する。

全身状態評価法を習得する。

歯科治療時に起こりうる全身的偶発症について、知識および治療法を習得する。

## II. 研修形態

研修期間：3 か月間

研修場所：手術室、歯科病棟、歯科麻酔科外来、全身管理歯科治療部において研修する。

歯科麻酔科指導歯科医の指導の下で行う。

## III. 研修内容

### 1. 研修項目

- 1) 術前診察、術前患者データの分析・評価
- 2) 医療面接とインフォームドコンセント
- 3) 麻酔計画の立案
- 4) 気道確保
- 5) 人工呼吸（マスク換気と気管挿管）
- 6) 静脈確保と救急薬品を含めた薬物投与方法
- 7) 術中モニタリングと評価（心電図、パルスオキシメータ、血圧測定、動脈血採取など）
- 8) 全身麻酔法
- 9) 精神鎮静法（静脈内鎮静法、笑気吸入鎮静法）
- 10) 有病者・高齢者・心身障害者の全身管理法
- 11) 救急蘇生法
- 12) 全身的偶発症の高度な知識

1)～12)について、下記の研修を行う。

- (1) 術前診察を見学、介助または実施する。
- (2) 全身状態評価および全身管理を歯科手術室・全身管理歯科治療部で担当し、麻酔法・管理法を見学、介助または実施する。
- (3) 全身管理・全身的偶発症の高度な知識と技術を症例検討会やセミナー等で習得する。

## IV. 研修の評価

各研修内容について評価する。評価は4段階評価とし各項目の実施あるいは理解度をもって判定する。

### 1. 臨床研修

研修態度、診断法、治療法など実地した項目、あるいは見学・診療介助した項目。

担当症例および興味を持った内容について発表、質疑応答を行い、習熟度を評価する。



## 2. 症例検討会・セミナー等による研修

指定されたテーマでレポート等を提出し、習熟度を評価

スケジュール概略（3か月）

一週間の予定

月・火・木・金：手術室にて全身麻酔・静脈内鎮静法、および歯科病棟にて術前診察

火・金：全身管理歯科治療部で心身障害者に対する静脈内鎮静法

水午前：全身管理歯科治療部で全身管理

水午後：歯科麻酔科外来での医療面接・インフォームドコンセント

1ヶ月目：歯科麻酔科指導歯科医の指導下に、全身管理（全身麻酔を含む）を補助する。

2～3ヶ月目：歯科麻酔科指導歯科医の指導下に、全身管理（全身麻酔を含む）を担当する。適宜研修症例を発表する。